

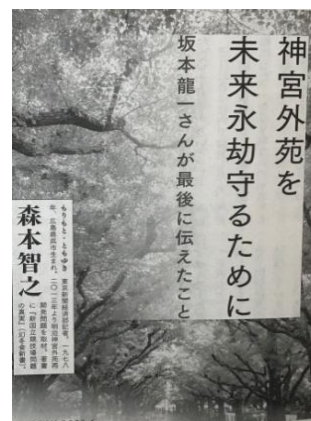
## 神宮外苑を未来永劫守るために

東京新聞 4月27日朝刊1面に、坂本龍一さん神宮外苑再開発「反対」と大きな見出し記事。「再開発に反対していることを記事にしていただけでないでしょうか。」

音楽家の坂本龍一さんから東京新聞に連絡があったのは3月7日、亡くなる3週間前のことだった。ツイッター経由で、その連絡を受けたのは望月衣塑子記者だった。外苑の取材を続ける私は望月記者から転送されたメッセージを読み、緊張した。

がん闘病中のため、マネージャーが代筆。対面取材も無理。だが、書面インタビューは受ける、とあり「お力をお貸してください」と結んであった。

写真は『世界』6月号「神宮外苑を未来永劫守るために 坂本龍一さんが最後に伝えたこと」。2013年から外苑再開発問題を取材する東京新聞の森本智之記者が、この間の経過と坂本さんの思いを伝える。



坂本さんからの取材依頼から「このままでは時がはぐくんだ美しい樹木や景観、環境が破壊されてしまいます」「ただ開発に反対するというのではなく、自然や景観を守りながら持続可能な開発の方法はあると考えています」

「子供たちに美しい日本の姿を残せない様々な現実には忸怩たる思いがあります。病床からでもできることはしたいと願っているところです」

私は書面インタビューの最後に、都民、市民に伝えたいことはあるかと尋ねた。坂本さんはこう綴って結んだ。

「自分たちが住む地域がどんな場所であって欲しいのか。それぞれがビジョンを持つことが大切だと思います」

「私は自然豊かな公園や墓地が好きですし、街路樹と樹木の多い道を歩くのが好きです。みなさんはどんな東京に住みたいですか？（…）私が住むNYは『大都市』の印象とはうらはらに意外と樹木が多いのです。緑を見るとホッとしますね。東京もそのような都市になって欲しいと願っています」

### —坂本龍一さんの手紙（全文）—

東京都知事  
小池百合子様

突然のお手紙、失礼します。  
私は音楽家の坂本龍一です。  
神宮外苑の再開発について私の考えをお伝えしたく筆をとりました。  
どうかご一読ください。

率直に言って、目の前の経済的利益のために先人が100年をかけて  
守り育ててきた貴重な神宮の樹木を犠牲にすべきではありません。  
これらの樹木はどんな人にも恩恵をもたらしますが、開発によって恩  
恵を得るのは一握りの富裕層にしか過ぎません。この樹木は一度失っ  
たら二度と取り戻すことができない自然です。

私が住むニューヨークでは、2007年、当時のブルームバーグ市長が  
市内に100万本の木を植えるというプロジェクトをスタートさせまし  
た。環境面や心の健康への配慮、社会正義、そして何より未来のため  
であるとの目標をかかげたこと、慧眼です。NY市に追随するよう  
に、ボストンやLAなどのアメリカの大都市や中規模都市でも植林  
キャンペーンが進んでいます。詳しくはこちらの記事をご参照くださ  
い；<https://globe.asahi.com/article/14629731>

いま世界はSDGsを推進していますが、神宮外苑の開発はとて持続  
可能なものとは言えません。持続可能であらんとするなら、これらの  
樹木を私たちが未来の子供達へと手渡せるよう、現在進められている  
神宮外苑地区再開発計画を中断し、計画を見直すべきです。  
東京を「都市と自然の聖地」と位置づけ、そのゴールに向け政治主導  
をすることこそ、世界の称賛を得るのではないのでしょうか。

そして、神宮外苑を未来永劫守るためにも、むしろこの機会に神宮外  
苑を日本の名勝として指定していただくことを謹んでお願いいたしま  
します。

あなたのリーダーシップに期待します。

令和5年2月24日

坂本龍一

※手紙は、小池氏のほか、永岡桂子文部科学相、都倉俊一文化庁長官、吉住健  
一新宿区長、武井雅昭港区長に郵送した。投函は3月2日。

(2023年5月14日)